

IV. 研究開発単位Ⅱ：協同的探究学習

第1章

概 要

三小田 博 昭

(1) 目的

国際的素養を身につけるために、既存教科すべてに「協同的探究学習」を取り入れ、他者とコミュニケーションを取りながら協同して問題解決する学習方法を開発する。理系科目だけでなく、文系・実技系科目にも拡大し、学校カリキュラム全体を暗記・再生の中心の教育方法から理解・思考型学習方法に変換することを目的とする。

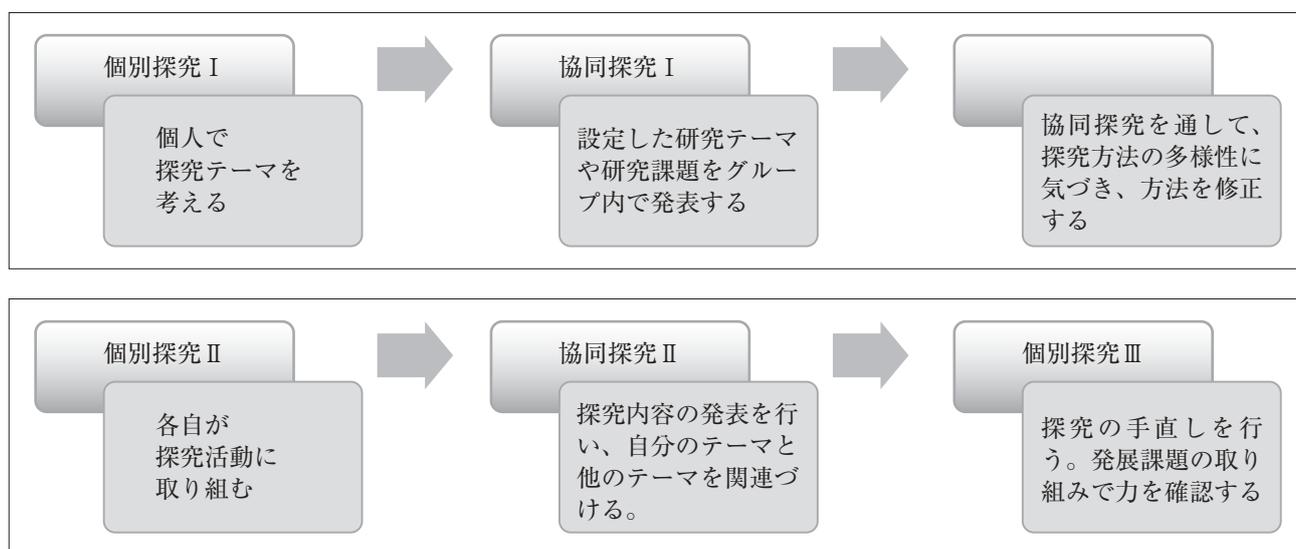
(2) 期待される効果

現代社会における地球的課題に対しては、他民族・多国籍の人々と協力して課題発見と課題解決をする必要がある。そのためには偏見や偏狭な思考と行動から脱し、人間相互のインタラクションを重視する思考と行動が求められる。このような国際的素養は自立した学習者には不可欠な素養であると考えている。既存教科すべてに「協同的探究学習」を取り入れることで、現代社会が求める、他者と協同して問題解決ができる、国際的素養を身につけることができる。

(3) 内容

初等中等教育において、従来から行われてきている学習は、正しい解法と答えはただ1つであることを前提に、暗記した事象を適応させることが中心であった。つまり、正しい解法を覚えて、それを問題解決に適用する学習であった。この形態の学習法では、自分が以前習得した問題解決法が適用できない問題に対しては充分対応することができない。また、解決法を暗記し、それを適用しているにすぎないため、問題の本質が理解されておらず、問題の根本的な解決にはなっていないことがしばしばある。本校が実践する「協同的探究学習」では、問題を解決するための方法は多様であり、自分の持っている知識と他者が持っている知識を活用しながら、問題解決法を自分で考案することである。そして、その思考プロセスを他者に表現し、他者と思考プロセスを共有することによって問題の本質を理解し、問題解決にあたる「わかる学力」を育成する。

(4) 指導方法



(文責 三小田博昭)